



吉崎別院便り

バラバラでいっしょ！

になれるところ

吉崎御坊御開創550年お待ち受け法要勤修

9月19日蓮如上人が吉崎の地に坊舎を建立され、今年で五五〇年になる事を記念し、「浄土真宗本願寺派、真宗大谷派合同吉崎御坊御開創五五〇年お待ち受け法要」が東西本願寺若手僧侶有志の企画によりコロナ禍の現状を配慮し勤修されました。法要は真宗大谷派吉崎別院輪番の調声にて、役職者及び若手僧侶出仕のもと「和訳正信偈」を共に勤行し、その後本願寺派吉崎別院輪番が法話をされ、法要は終了となりました。法要終了後合同法要を企画した若手僧侶のメンバーは来年執行される御開創法要に向けて、交流を重ね課題を共有する事を確認しました。

また合同法要に先立ち9月14日、15日の両日「吉崎御坊建立五五〇年讃仰教化事業」として、法話伝道研修会が開催され8人の講師が各々の講題にて法話をされました。この研修会を企画された藤兼衆氏(福井教区第6組福圓寺住職)は挨拶の中で「寺で生活する者が一番仏法から遠いのではないか、話しが上手くなる事が目的ではない、話す事で聞法求道の課題を見出し、聞いて下さる門徒の方々に育てられる事が大事なのではないかと



調声 篠原輪番



藤氏 挨拶

語られました。浄土真宗本願寺派との交流、そして個々の研鑽が同時に始まりました。その始まりこそが吉崎別院の存在理由を明らかにし、生きる方向性を教示するのではないのでしょうか。

見玉尼法要勤修



9月15日午後、佐々木祐子氏(日月文庫)主催にて見玉尼法要が勤まりました。佐々木氏は蓮如上人の二女で25歳の若さで吉崎の地で亡くなられた見玉尼のご生涯に学び、毎年の仏事に出来れば」と語られました。